

第2回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本にて紹介していない応用編について、紹介します。
あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、
インフォメーションに記載の書籍等をご覧ください。

2005年10月 2日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

言い訳の「なぜ」を書かないこと！

「なぜなぜ分析」は、しっかりした理屈のもとに原因追求、および再発防止策を導くものです。

したがって、その分析上で使われる表現は、上記に結びつくものでなければなりません。

人間誰も言い訳をしたいものですが、その言い訳を許してしまうと次に続かなくなってしまう例を今回はご紹介します。

<間違った「なぜなぜ分析」>

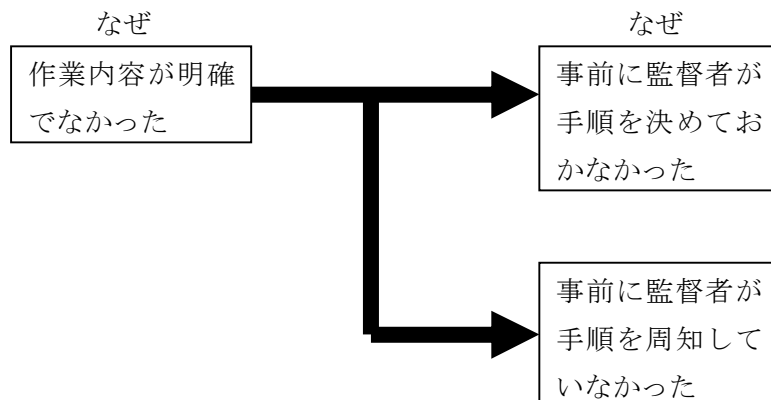


上記のように、「めったにない作業だった」というのを「なぜ」で出してしまうと、この後原因追求や再発防止策が出てこなくなります。

また、このような言い訳の「なぜ」を出してしまうと、さらにその言い訳を正当化する「なぜ」が出てきてしまうことが少なくありません。

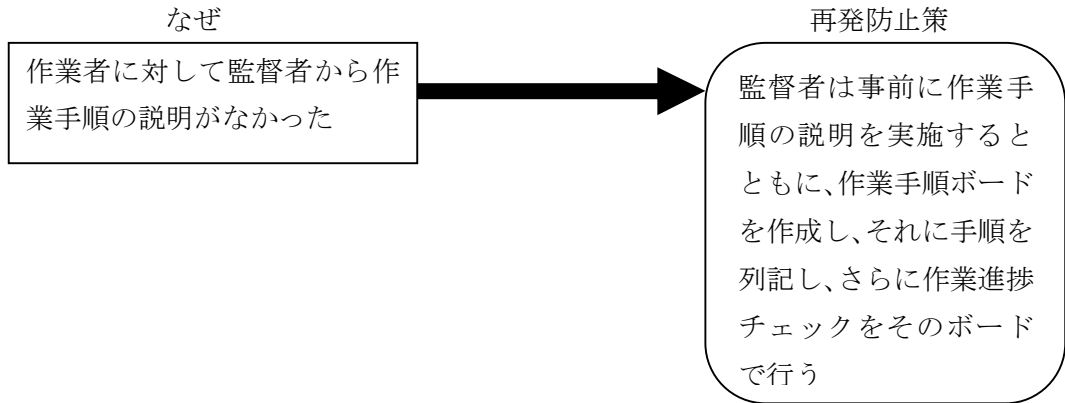
それでは、一体上記をどのように修正すればよいのでしょうか。

<修正案—その1—>



または、そもそも「作業内容が明確でなかった」というのは、非常にあいまいな表現とも言えることから、その部分から修正してしまうやり方も良いでしょう。

<修正案-その2->



このように、言い訳の「なぜ」が出てきたら、これは考え方として間違っているのでは、と思って修正すると、今までとは違った角度からの「なぜ」や再発防止策が出てきます。

私の経験から言うと、言い訳の文の多くは、主語が抜けています。

そのことから、主語を抜かさないようにすることにより、このような言い訳も防ぐことができます。

ぜひ、参考にしてください。

以上